



2014 甲午

お大師さまの真言宗です...



平成26年7月1日  
 真言宗豊山派  
 田宮山 薬師寺  
 住 藤 市川成寛  
 副住 藤 市川慈寛  
 茨城県牛久市田宮町248  
 電話 029-872-5959 (代)  
 FAX 029-872-6125

ごあいさつ

お施餓鬼やお盆の時節がおとすれました。  
 本年、新盆をお迎えのお宅では、かけがえのないご家族を失い、悲嘆に明け暮れしながらも故人の冥福を祈り、何かと心をくたく日々をお過ごしのことと存じます。

悲しい中にもご縁あって当山の「本尊さまに導かれた貴家の精霊さまは、この夏、さらなる追善供養により深い仏の境界へと進まれます。仏教徒の最も大切な行事「施餓鬼会」は、今や、新盆を中心にお檀家各家が総出仕されて、年に一度の「大施餓鬼会」となっております。盛夏の初、涼しい服装にて、今年も賑々しくご来山の程、ご案内を申し上げます。

合掌

菩提寺の夏行事  
**お施餓鬼とお盆の時節**



● 8月12日大施餓鬼会／満堂のお檀家さま



● 敬虔なる祈りのひととき



● 阿彌陀堂での欄前(塔婆)供養



**お施餓鬼は  
 仏教の眼目(肝心な教え)**

「慈悲の実践」であり、最も功德(ご利益)のある行事だと説かれています。施餓鬼の功德を自分のご先祖さまに向向(めくらす)して塔婆を建立するのは、「餓鬼道」という世界は自分には全く関係ないような気がしますが、大事なことは、餓鬼の苦しみ"を濟つてあげようとする気持、"あなたの慈悲心"が、ご先祖様へのご供養となるのです。お盆もお施餓鬼も、お釈迦さまが弟子の願いに応じて餓鬼道に墮ちた人々を救うために説かれた「法事」ですが、特に○「お盆」は自分の身内を救うための行事として、ご先祖を偲んで供養しますが、○「お施餓鬼会」は他人(無縁)さまをも救うために説かれた教えであり、人間が「一人」となるための教えだと云えますしやう。

# 八月十二日 お施餓鬼会

午後三時より始まります

## お檀家さんがみんなでご先祖様のご供養です。

### ご先祖様の供養です。

われわれ人間の中には、その死があまりにも痛ましく哀れに思われるものがあります。戦争や事故によって横死した人、天災による不慮の死、身寄りのない行き倒れなど、そして今日まで一片の追向もなかったことのない水子や無縁の精霊など無数に及ぶ霊の存在です。

仏教が芽生えた古代インドより、そのような不慮の災難など、或いは子孫が途絶えたりして供養が行き届かない無数の死者の霊魂に対しても慈悲の思いを馳せるのです。

## 施餓鬼会の心は 慈悲の心です

多くの生命を奪い、彼らの犠牲性によって成り立っているのが人生という現実であります。弱肉強食の中で殺生という業を毎日積み重ねたものが我々の生活だと思えます。

## 施餓鬼会のご法話は午後三時より — 今年の演題は —

### 地球環境は護れるか！

人が住めない所に鳥は棲めても  
鳥が棲めない所には  
人は住めません。

公益財団法人  
山階鳥類研究所理事  
本山特派布教師  
大塚寺住職  
小林 隆成 僧正

このような人間世界を振り返り、私達は「生かされている」のだ、という自覚の上で、これらに恵まれない同胞、救われない霊魂達に対し、一片の供養も捧げないでおられようか……。

いつしかこの業の垢がたままってその身の上に災難や不幸が見舞ったとき、これを洗いおとす行として施餓鬼の供養が盛んに行われるようになったものと云われます。

どんなに物質に恵まれた科学万能の世界にあっても、この人間としての慈悲の心は永遠に保持すべきものでありましょう。

### 初めて出席される皆さまへ

当日は、先ず任職の挨拶と法要の説明から開始されます。

次いで、施餓鬼会のご法話が行われます。大勢の僧侶が入堂し、ご先祖供養と新盆掛軸の開眼など、祈念するご法要「本尊法要」が勤められます。

次に、阿彌陀堂の施餓鬼欄前に移動したお坊さん方は起立されたまゝ、お経を唱え、施餓鬼の作法を修します。欄の周囲を三度行道し、無量の諸精霊に回向して供養の法会が営まれます。法要を通じて説戒師(解説師)が皆さまにご案内しますが、焼香が始まると、法要は終盤となり、お塔婆が外部に並べられ、行事は終了です。大勢の皆さまが一堂に会するだけに混乱のなきよう、心静かに、譲り合ってお塔婆をお受け取り下さい。

# 青春

青春とは人生のある期間を指すのではなく、精神の在り方を指すのです。

優れた創造力、たくましい意志、燃えるような情熱、臆病な弱い心を打ち破る勇氣、困難に負けない冒険、このような心の在り方を青春というのです。

人は年齢を積み重ねるだけで老いるのではなく、生きていく希望を失った時、初めて老いるのです。

年月は皮膚にしわを増やすが、生きる情熱をなくすと、その人は心にしわが増えるのです。

人は、七十歳であろうと、十六歳であろうと、心に変化を求め続け、万物への尊敬の念を抱き、決してへこたれず、子供のような探究心と生きる喜びを持ち続ければ、その人は青春です。

人は信念を持つことによって若々しく  
人は自信を持つことによって若々しく  
臆病に生きることによって老いてしまう  
希望を持つ限り若々しく

自然の美しさ、万物の恵み、人間の勇氣の力を偉大なものと考え、人の若さは失われることはありません。

悲しみが心を覆い、深い悔しみに心を固く閉ざしてしまった時に、人は老い、やがて神にすがらなくなってしまうのです。

サムエル・ウルマン作「Youth」より



私たちはいつも青春

このウルマンの「青春」という詩は、GHQのマッカーサー元帥の執務室に飾られたのを、ある人が見つけ感動し、翻訳したのを、後に松下幸之助氏の目にとまり、有名になった。とも云われますが、此の程、当山の檀家さんで、牛久市商工会青年部OB会のキャップ石川裕氏より、その他の情報と共に提供されたものです。有難うございました。お檀家の皆さまもいつまでも青春を保つために、座右の銘に致しましょう。

# 八月十三日 お盆の迎え

午後三時半にご集合ください

盆綱(ご先祖お迎えは蛇にのせて)

子供たちが主役です。

五月十五日

## 修養会バスでお出かけ

雨も上がって清々しい中をみんな元気に今日も一日、有意義に過ごしました。

○八時半、お寺を出発し浅草には十時に到着。

○浅草寺にご参拝、参道仲店通りは人の渦(自由参拝)。

○十一時半に集合して、隅田川のクルーズは浜離宮にて下船。そこはもと將軍家の鷹狩場、大名庭園を散策しながら昼食の店までは結構な運動となりました。

○天空のダイニングルームといわれる、地上二百メートルの天望、カレッタ沙留46階のレストランで・・・。それなりのお食事(ランチ)を頂きました。

### 靖國神社への参拝

春季大祭を避けて、静かにゆっくりお参りができました。

折からの、大東亜戦争七十年展が開催されており、資料館(遊就館)の全容に触れながら、一様に感慨を深くし、身の引き締まる思いの中で涙する一時でした。

靖國神社の創建は、明治天皇のお詔みになられた「我が國の爲をつくせる



人々の名もむさし野にとむる玉かき」の御製でも知られるように、世の平安を願い国家のため一命を捧げられた人々の霊を慰め、同時にその事績を後世に伝えるべく「靖國」と命名され、祖国の平安と平和な国家の建設を祈られたのです。



## 水子洗淨供養

今年の洗淨供養は7月27日(日)午前9時より

ど、一連の対外事変や戦争に際し、ひたすら「国安かれ」の一念のもと国を守る大義のため尊い生命を捧げられた二百四十六万六千余の多種多様な方々の「神霊」が一律平等に祀られているのです。

合掌

## 総本山長谷寺より感謝(報告)

総本山長谷寺の防災整備基金については既に全国檀信徒・萬靈回向として当山でも多くの皆さまからご協力を賜りましたが、左記の通り本山よりご挨拶がございましたので改めて掲載を致し、ご報告とさせていただきます。

拝啓 御尊家におかれましては、ご清祥の段お慶び申し上げます

さて、このたび、総本山長谷寺境内防災整備事業「派内寺院協力金」勸募並びに全国檀信徒支援金「平成萬靈回向」勸進にあたりまして過分なるご浄財をご奉納頂きまして、誠に有難うございました

この御浄行により総本山長谷寺境内防災事業を無虞円成出来まます様努力を続けて行きたいと存じます

なお、御守護札を同封いたしましたのでお納め下さい

平成二十六年四月吉日 総本山長谷寺

### 業師寺お檀家様各位

一、お申し込み総数 百六十一名様より  
一、ご浄財の総額は 百六万五千円となりました。  
尚、各位には既に御守護札等をご送付致しましたので受納の証としてお納めください。

## 皆さまの菩提寺は整っています

●「家族葬」といわれる少人数のご葬儀は、阿弥陀堂が便利です。  
●三十名を超える場合は、やくし会館をお勧めします。(お気軽にお尋ねください)

少人数のご葬儀なら荘厳された阿弥陀堂で



阿弥陀堂(椅子席も可)



やくし会館(何れもご本尊は阿弥陀さま)



境内(塚場)梵鐘の音に送られ出棺

◎この葬儀については早目にご相談下さい。  
☎〇二九一八七二一五九九



● 先ずは本堂でお参りです

地域の子供会やお檀家の子供さん、小学生から幼稚園生まで、ご縁ある子供達が集って昔から行われている盆綱行事です。本堂でおつとめの後、境内や墓地を練り歩き、ご先祖さまの御霊を籠の背にのせお迎えし、最後は本堂前に安置、集った人達とみんなでお盆の廻経を営みます。梵鐘を撞きながら各家の迎え提灯にあかりを分け、ご先祖をお渡しするので、昔の名残りを伝える情緒ある風情にご家族みんなでご参加下さい。

**八月十三日 (盆綱行事)**

**お盆ぼんの迎え**

ご先祖お迎えは蛇じゃにのせて…

— 午後四時より始まります —



ノーラッセ ノーラッセー  
ホートケサーマ ノーラッセー



● ご先祖のお迎えは蛇に乗せて…

オーンジャツタ  
ホートケサーマ  
オンジャツタ  
オンジャツター



● ワンバクも力いっぱい、ホートケサーマ

● ご先祖あつての子供たち、大人になっても忘れない

お檀家さんには、一人でも多くのお子さまをお連れになつて、ご先祖さまをお迎えください。  
(お盆、お迎えの提灯を)持参ください。  
◎おやつとお土産を用意します



◎この時間、駐車場は行事のため規制されますのでお近くの方は徒歩にてご協力ください。



ホートケサーマ  
ワータシマスヨ

● 幼いころの思いでづくり



### 相互供養のおしえ

私たちが毎日眠ることは、死の疑似体験でしょうか? 「生死一如」と云われるように、死は常に隣り合わせに存在している様です。  
生まれたての赤ん坊の無意識に行われる小刻みな寝起きや、或いは老人の深い眠りの中にも生死の営みを垣間見る思いがします。  
そして、最後の眠りが死となるのでしよう。お施餓鬼や各種のご法事は、人がより良く生きるための営みであり、人が本能的に編み出した知恵ではないでしょうか。人間は如何に生きるかが問われるなかで、特に精神的分野にその拠り所を求めるようになれば必然的に辿り着く自らへの安堵と安らぎであり、それは他者への癒しの心(慈悲心)であろうと思えます。  
即ち仏教行事の妙味であり、あの世とこの世が相互に供養し合うのであります。